



日本コミュニケーション障害学会  
Japanese Association of Communication Disorders



第37回

# 日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 37th meeting of Japanese Association of Communication Disorders

大会  
テーマ

## コミュニケーションの原点を探る

会期

2011年 5月28日(土)・29日(日)

会場

JA長野県ビル

会長

長谷川 和子 山梨リハビリテーション病院

第37回

# 日本コミュニケーション障害学会 学術講演会

予稿集

The 37<sup>th</sup> meeting of Japanese Association of Communication Disorders



コミュニケーションの原点を探る

会 長：長谷川 和子(山梨リハビリテーション病院 昭和大学)

主 催：日本コミュニケーション障害学会

会 期：2011年5月28日(土)・29日(日)

会 場：JA 長野県ビル

# 第37回日本コミュニケーション障害学会学術講演会の 開催にあたって

日本コミュニケーション障害学会第37回学術講演会

会長 長谷川 和子

第37回学術講演会を開催するにあたり、準備を進めてきた会員を代表してご挨拶申し上げます。

この文を書こうとパソコンに向かっていたまさにその時(3月11日)家が大きく揺れ、東日本大地震の報が入ってきました。その後続々とテレビから凄惨な光景が流され、自然の威力のすさまじさ、人の存在のおぼつかなさにも呆然とする思いです。障害のある方々が津波から逃げ切り、その後の生活を過ごされることの困難さを思うとただ祈るばかりです。会員の中にも災害に遭われた方がおられるかもしれません。また多くの方が亡くなられた可能性があるということです。心よりお見舞いとお悔みを申し上げます。

一方で、多くのものを失った後でもまた頭をあげ、身近なもの同士支えあいながら日々の営みを始める姿に、人が内に持つ命の力を思わないではいられません。思いがけず病気になった方であれ、発達のスピードや様相が他と異なる子どもたちであれそのご家族であれ、当事者が持つそのような力に励まされ、呼応するように私たちは仕事をしているのではないのでしょうか。

高齢化ともなうコミュニケーション機能の低下や発達障がいによるコミュニケーションの困難さ、さらに嚙下障害を抱える方への支援などコミュニケーション障害に関わる私たちの領域は多様な広がりを見せています。しかし、医療や福祉、教育における国の施策は厳しさを増し、質量ともに十分な対応とはとても言えない状況にあります。そのような状況の中で、今回のテーマを「コミュニケーションの原点を探る」といたしました。人と人との関係性そのものに基盤を置いた脳の神経機構の研究も少しずつ進んできている中で、呼応し共鳴することでその芽を育て増幅させたいと願う原点を再認識し、障がいを抱える方々が社会で共生するための支援の方向や方法を探り、それを発信するための議論を深めたいと思います。

特別講演は、人類学者であり自閉症のご子息の父親でもあられる菅原和孝氏に、大会テーマに沿った御講演をお願いしております。シンポジウムⅠ「高次脳機能障害者が社会とつながるために」とシンポジウムⅡ「障がいの重い子どもたちとのコミュニケーションを再考する」では、大会テーマを深めると同時に、それを臨牀的にどのように展開するのかを討論していただく予定です。体験セミナー「最近のコミュニケーションテクノロジー」は、最近の進んだ技術が何を可能にしてくれるのか、実際に体験しながら考える機会にしたいと思っております。特別企画は、演劇公演も行っている長野失語症友の会がワークショップを展開します。会長講演も、短時間ですがさせていただきます。

一日目の夜には、懇親会を開催し、長野の名産を味わいながら親睦を深めていただく予定です。また、会場は善光寺に近く、会期中は信州の山並みも緑あふれる頃です。本学術講演会が、皆様の英気を養っていただく機会になれば幸いです。多くの方のご参加を心よりお待ちしております。

## 第37回日本コミュニケーション障害学会学術講演会によせて —コミュニケーションと祈り

日本コミュニケーション障害学会

理事長 大井 学

10年近い付き合いになる中企業の会長が、興味深い話をしてくれた。彼は採用面接に自らのぞむ。間違えると会社の浮沈にかかわるといふ。去年の入社希望者の中に、高い硬筆技能を保証する資格のある大卒男子がいた。履歴書は、しかし、プリントアウトであった。なぜ自筆しないのか尋ね、学生は紙質がペンに合わないからと答えた。これで、一般常識試験最高得点のこの学生は不採用となった。コミュニケーションは、もはや美しい営みとは限らなくなった。男子学生が「自筆には心がこもっていると思ひまして」と要領のいい応答をすれば、たぶん入社できたであろう。こういうスキルがないと営業はできないと会長は言う。

就活が広がるにつれ、大学生たちはコミュニケーションスキルの不足に怯えるようになった。就活セミナー講師は耳にタコができるほどコミュニケーションを連発する。実は彼らはゼミで議論することも著しくためらう。子供時代から、考えを言葉にすることが苦役となつてしまつている。大学教師を30年以上していると如実にわかる。時代は変わったのだ。おそらく新自由主義登場あたりから。

本学会の名称は、きこえやことばというばらばらの機能でなく、人全体を見ようという立場から名づけられたはずである。が、その用語が世間ではもはや意味を変えつつある。では、われわれが立ち会うコミュニケーションはどうなのだろうか？臨床の場で、これが実に寒々としたものに変貌していると感じることがある。もちろん、互いを認め合い、理解を深め合う心温まるコミュニケーションのお手伝いができることもある。しかし、作今聞こえてくるコミュニケーション障害への対応は、上記の採用面接の雰囲気に近い。生存競争を勝ち抜く、戦いに挑むような発想で「支援」が組み立てられる。コミュニケーションとは互いの心への祈りにも似た営みではなかったのか？口にしたからとて伝わるとは限らない。共通理解のための賭け。ゆえに、慎重に選んだ少しの言葉をゆっくりと語るのが人を安らげる。

学術講演会開催地長野は、古来祈りの場である。善光寺は創建が公称7世紀。もっと古いという説もある。不思議なことに真南に諏訪大社本宮がある。ともに物部氏にゆかりらしい。記紀神話の出雲にもつながる。

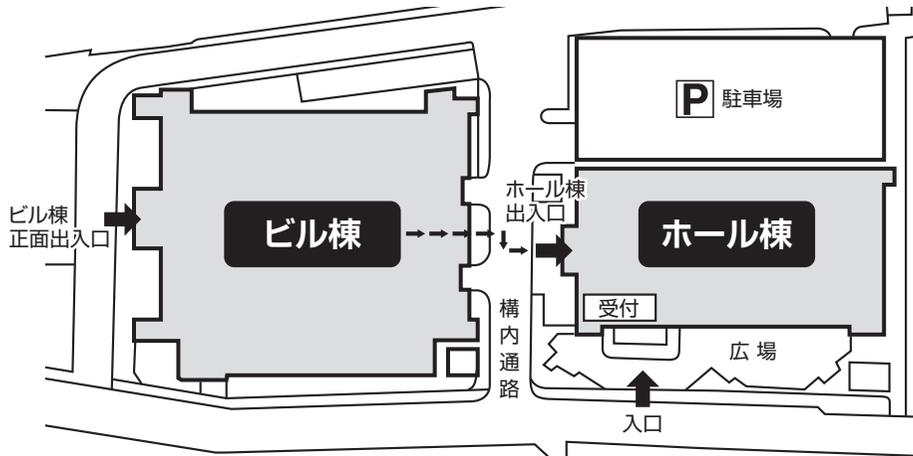
若者たちが言葉に祈りを託すのを恐れる時代になった。障害もそれに応じて姿を変える。冒頭の会長はトップクラスの進学校に通うアスペルガーの子息のために、会社を興す計画をもつ。とても会社コミュニケーションは息子の手におえないと考え、社長を退いたのだ。コミュニケーションの変貌と行く末を、古代から連綿と続く祈りの場で見つめなおすのもまた一興である。そのために講演会場を多少抜け出すのはよしとしよう。われわれも、ゆるりと、納得のいく、心の通う研究のコミュニケーションを楽しもうではないか。

# 交通案内



- JR長野駅から ……………徒歩 10分
- 長野インターから ……………車で 30分
- 須坂長野東インターから ……車で 30分

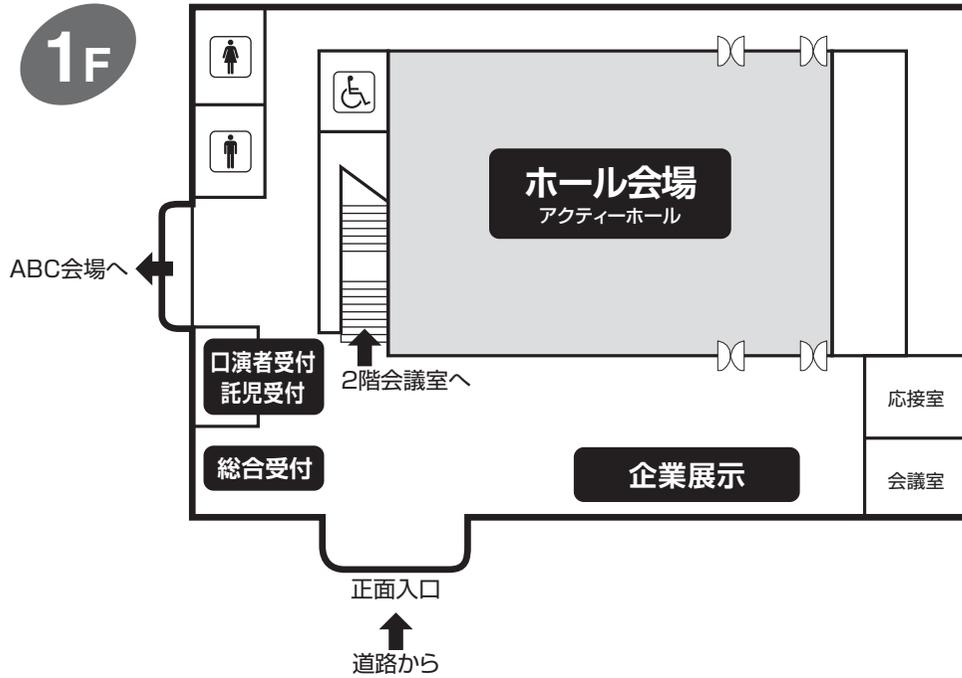
## JA長野県ビル



# 会場案内

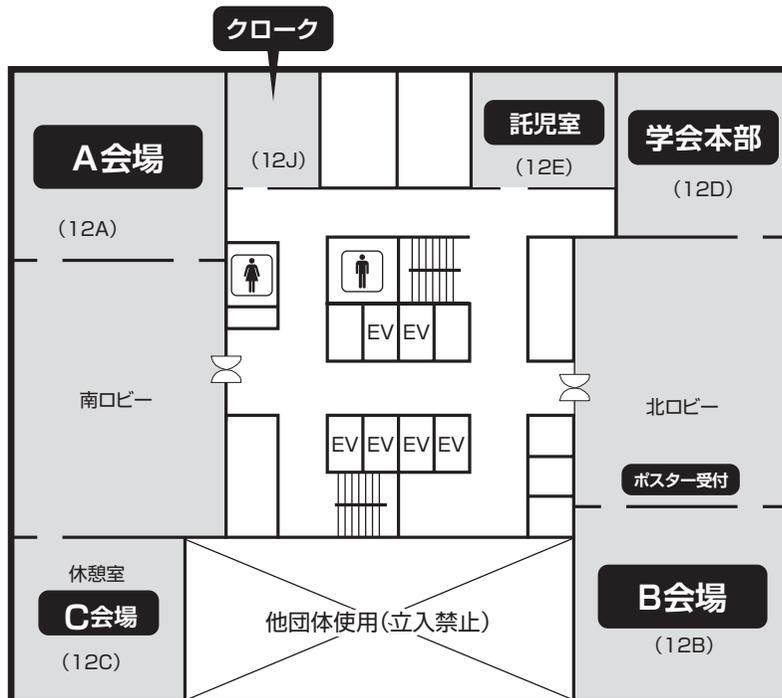
ホール棟

1F



ビル棟

12F



# ご 案 内

## ■ 受 付

1. 受付は5月28日、29日ともに9時より行います。
2. 参加費および懇親会費は次の通りです。

会 員	8,000円
非 会 員	8,000円+予稿集代1,000円
学 生	3,000円+予稿集代1,000円(学生証を提示して下さい。)
懇親会費	4,000円
3. 当日、別に予稿集がお入り用の方には、受付にて1冊1,000円で販売いたします。

## ■ 進 行

### 【口頭発表】

#### 1. 座長の先生方へ

- (1) 担当当日に総合受付で「座長受付」をお済ませ下さい。
- (2) 開始予定の10分前には、次座長席にお着き下さい。
- (3) 1演題の発表は7分、討議時間は3分です。
- (4) 質疑応答では、発言者の所属・氏名を確認してください。

#### 2. 演者の方へ

##### (1) 演者受付について

- ① 総合受付で学術講演会「参加受付」をお済ませの上、発表群開始30分前までに「演者受付」を行って下さい。なお朝一番の群で発表される方は、時間の都合上、演者受付を済ませてから参加受付を行って下さい。

##### (2) 発表用データについて

- ① 口頭発表はPC(Windowsのみ)による発表となります。
- ② PC(Windows XP)は学会で準備いたします。
- ③ 演者の方は発表データをCD-RかUSBメモリスティックでご準備ください。
  - ※ USBメモリスティックは最新のウィルス駆除ソフトにてチェックを行って下さい。
  - ※ CD-RW、MO、その他のメディアは受け付けられませんので、ご注意下さい。
  - ※ 動画を使用される方は動画のファイルも併せてご持参下さい。
- ④ 今回ご用意しておりますコンピュータのOSとアプリケーションは以下の通りです。  
OS: Windows XP Professional SP2  
アプリケーション: PowerPoint2003/2007
- ⑤ 文字化けを防ぐために、下記のOS標準フォントをお使い下さい。  
日本語: MSゴシック、MSPゴシック、MS明朝、MSP明朝  
英語: Arial、Arial Black、Century、Century Gothic、Times New Roman  
※ Windows Vistaにおける日本語標準フォントである「メイリオ」のご使用はお控え下さい。  
Windows XP環境では他のフォントに置き換えられるため、レイアウトが崩れることがあります。
- ⑥ データを保存する際、ご使用の「PowerPoint」のバージョンをご確認下さい。  
※ 作成時と異なるバージョンでファイルを開いた場合、レイアウトが崩れることがあります。  
メニューバーにある「ヘルプ(H)」→「バージョン情報(A)」でご確認いただけます。

- ⑦PowerPoint に動画ファイルをリンクする場合は、必ず1つのフォルダ内に保存した上でデータを作成願います。また、動画ファイルは「Windows Media Player」にて再生可能なものに限ります。念のため、ご自身のPCをバックアップとしてご持参されることをお勧めいたします。

### (3) 動作確認等について

- ①発表のデータの入ったメディア(CD-R か USB メモリスティック)をお持ちいただき、「演者受付」で動作確認を行って下さい。
- ②発表用データ(PowerPoint)は、いったん受付用パソコンにコピーし、動作確認後各会場のPCのデスクトップにコピーします(コピーした発表用データは、学会終了後、事務局が責任をもって破棄します)。

- (4) 演者受付時間までにお越しになれない場合は郵送受付をいたします。発表用データをCD-Rに入れ、ラベルに演題番号・演題名・発表者名を明記して下さい。

郵送受付：5月21日(土)必着

郵送先：〒393-0093 長野県諏訪郡下諏訪町社字花田6525番地1号

信濃医療福祉センターリハビリテーション部言語療法科

第37回日本コミュニケーション障害学会学術講演会事務局

(郵送の場合の動作確認は事務局で行いますが、動作不良については各発表者が責任を負うものとします。)

### (5) 口頭発表について

- ①PCの操作は各演者ご自身でお願いします。操作支援・補助が必要な場合は「演者受付」にてご相談ください。
- ②映写面は1面のみです。
- ③発表時間は7分、質疑応答は3分です。  
発表終了1分前と終了時に合図をいたしますので、終了時間を厳守して下さい。

### (6) 抄録原稿について

「コミュニケーション障害学」掲載用の抄録原稿を、以下の要領でご提出下さい。

- ①抄録テンプレート(Microsoft Word)を学術講演会ホームページからダウンロードしていただき、5月26日までにメールの「添付ファイル」にて、事務局宛てにお送り下さい。  
E-mail：37th.com.gakkai@gmail.com ※演題登録窓口とは送付先が異なります。
- ②学会当日、演者受付の際「印刷原稿」を2部ご提出ください。  
※添付ファイルの内容と印刷原稿とが異なることのないように十分ご注意ください。  
内容が異なる場合、印刷原稿の内容を優先致します。

## 3. 質疑応答

- (1) 質疑応答の時間は1演題3分です。
- (2) 質疑応答は座長の指示に従って下さい。
- (3) 発言者は最初に所属・氏名を述べて下さい。

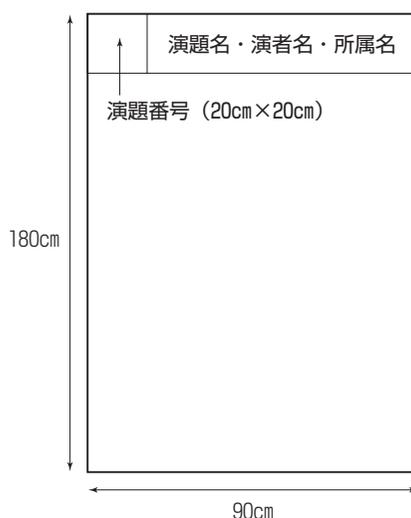
## 【ポスター発表】

### 1. 演者の方へ

#### (1) ポスターの掲示作業について

- ①アクティホールの総合受付で学術講演会「参加受付」をお済ませの上、JA長野県ビル12階北ロビーで「演者受付」を行って下さい。

- ②ポスターはJA 長野県ビル12階B会場に展示していただきます。学会が用意した所定のパネル(90cm×180cm:1面)に貼り付けて下さい。  
貼り付けるための道具は事務局で用意いたします。
- ③ポスターの貼り付けは1日目の9:00～11:00までの間にお願いいたします。それ以降になる場合は予め事務局にご連絡下さい。
- ④演題番号はパネルの左上に予め貼り付けてあります(約20cm×20cm)。その横のスペースに演題名、演者名、および所属名を記載して下さい。それ以外のスペースはご自由にお使い下さい。パネルからはみ出さないようにお気を付け下さい。



## (2) 質疑応答について

2日目の9:20～10:30の指定された時間に各ポスター前に待機して下さい。参加者と質疑応答する機会を設けます。この時間帯には、各発表者が責任をもってポスター前に待機しておいて下さい。座長は置きませんので、各自ディスカッションを行って下さい。

## (3) ポスターの撤去作業について

- ①撤去作業は、発表者が2日目の13:00～15:00までの間に行ってください。
- ②発表者が撤去されなかった場合は、事務局で廃棄いたしますのでご了承ください。

## (4) 抄録原稿について

「コミュニケーション障害学」掲載用の抄録原稿を、以下の要領でご提出下さい。

- ①抄録テンプレート(Microsoft Word)を学術講演会ホームページからダウンロードしていただき、5月26日までにメールの「添付ファイル」にて、事務局宛てにお送り下さい。  
E-mail: 37th.com.gakkai@gmail.com ※演題登録窓口とは送付先が異なります。
- ②学会当日、演者受付の際「印刷原稿」を2部ご提出ください。

※添付ファイルの内容と印刷原稿とが異なることのないように十分ご注意ください。  
内容が異なる場合、印刷原稿の内容を優先致します。

## ■お知らせ

### 1. 公開講座

特別講演と特別企画を公開講座といたしましたので、一般の方々のご参加をお待ちしています。予約は必要ありませんので、当日会場へお越し下さい。各講座1,000円の参加費をいただきます。

### 2. 展 示

B会場で書籍・機器の展示を行います。書籍販売コーナーでは、講演者の先生方の書籍も用意しております。また、ホールロビーにて、嚙下食等を展示しております。

ぜひお立ち寄りください。

### 3. 昼食および休憩室

昼食の注文は、事前に受け付けています。ホームページ(第37回日本コミュニケーション障害学会学術講演会)にてご案内・受付をしております。ビル12階に休憩室を設けてあります。休憩室では、飲食が可能です。昼食の引き換えは休憩室にて行います。なお、会場内にはレストラン等はありません。会場付近に飲食店はありますが、休日のため、駅前以外は休業となる店も多いことと思われますので、ご注意ください。

### 4. 託児室

託児室を設置いたします。託児をご希望の方は、ホームページをご覧ください。託児室は12E会場(ビル12階)です。

### 5. 懇親会

28日(土)19時から21時まで、会場近くの「サンバルテ山王」にて懇親会を行います。会費は4,000円です。学会員同士が親睦を深めるよい機会ですので、多数の方の参加をお待ちしております。懇親会に参加を希望される方は、氏名・所属・連絡先を事務局までメールでお知らせください。

Email : 37th.com.gakkai@gmail.com

### 6. 役員会、委員会

次の役員会、委員会が開催されます。

理事会(理事、常任理事、監事)	5月28日(土) 昼休み ホール2階会議室
学術事業部会議	5月29日(日) 昼休み(場所は当日受付に掲示)
拡大編集委員会	5月29日(日) 昼休み(場所は当日受付に掲示)

### 7. 総 会

日本コミュニケーション障害学会総会が開催されますので、皆さんご出席ください。

日 時：5月29日(日) 13：00～14：00

会 場：ホール会場

### 8. その他

クロークはビル12階にあります。

学会本部はビル12階にあります。

車椅子でご参加の方は、事前に事務局までメールでご連絡ください。

## ■分科会

本学会では、会員の自主的な研鑽を目的として、分科会、委員会、研究助成金の付与などの活動を推進しています。今学会では、分科会の活動の成果を発表する場を設定いたしました。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

① 言語発達障害研究分科会	28日(土) 17：00～18：20	A会場(ビル12階)
② 重度失語症臨床分科会	28日(土) 17：00～18：20	C会場(ビル12階)
③ 吃音および流暢性障害研究分科会	28日(土) 17：00～18：20	ホール2階会議室

# 日 程 表

第1日目 5月28日(土)

	アクティールホール	A会場(ビル12階)	B会場(ビル12階)
9:00	9:00～ 受付開始		9:00～ ポスター受付展示開始
10:00	9:50～10:00 開会の挨拶 10:00～10:50 A群 構音障害(1)	10:00～10:50 C群 発達障害(1)	ポスター展示 (ポスターは11:00までに 展示してください)
11:00	10:55～12:25 シンポジウムⅠ 「高次脳機能障害者が 社会とつながるために」 廣実 真弓氏 中塚 圭子氏 和田 敏子氏	10:55～11:45 D群 発達障害(2)・発達	
12:00		11:50～12:20 E群 吃音	
13:00	昼 休 み		
14:00	13:30～14:10 B群 重度重複障害(小児)	13:30～14:10 F群 失語症・重度重複障害(成人)	書籍販売 企業展示
15:00	14:15～15:45 シンポジウムⅡ 「障がいの重いこどもたちとの コミュニケーションを再考する —こどもの意思表出とかかわり手のあり方」 松田 直氏 水上 洋治氏 岩根 章夫氏	14:15～15:25 G群 コミュニケーション支援・ 社会支援	
16:00	16:00～16:50 特別企画 「演劇ワークショップ」 長野失語症友の会		
17:00	17:00～18:20 吃音及び流暢性障害分科会 (アクティールホール2階会議室)	17:00～18:20 言語発達障害研究分科会 (A会場)	17:00～18:20 重度失語症臨床分科会 (C会場)
19:00	19:00～21:00 懇 親 会 (サンパルテ山王)		
20:00			
21:00			

第2日目 5月29日(日)

アクティールホール

A会場(ビル12階)

B会場(ビル12階)

9:00	9:00~ 受付開始		
	9:20~9:40 H群 聴覚障害		9:20~9:55 ポスター質疑 J群 脳機能障害、社会支援・嚙下 L群 コミュ支援、口蓋裂・気切
10:00	9:40~10:30 I群 構音・構音障害(2)		9:55~10:30 ポスター質疑 K群 脳機能障害、聴覚・吃音・養成 M群 発達障害
11:00		10:30~12:00 体験セミナー 「最近のコミュニケーション テクノロジー ~触って使って感じてみよう」 小笠原 美恵子氏 安田 清氏 本田 祐介氏 青木 高光氏 杉浦 徹氏	ポスター展示  書籍販売  企業展示   (ポスターは13:00~15:00に 撤去してください)
12:00		12:00~13:00 機器展示	
13:00	昼 休 み		
14:00	総 会		
15:00	14:10~15:20 特別講演 「コミュニケーションの原点を探る —表情と関係性から」 菅原 和孝氏		
16:00	15:25~16:05 会長講演 「口腔顔面領域の運動機能と その障害に新しい視点を」 長谷川 和子 16:05~ 開会の挨拶		
17:00			
18:00			
19:00			

# プログラム

特別講演 5月29日(日) 14:10～15:20

アクティールホール会場

司会：長谷川 和子(学術講演会会長)

## [ コミュニケーションの原点を探る ― 表情と関係性から ― ]

菅原 和孝 京都大学大学院人間・環境学研究科

シンポジウムⅠ 5月28日(土) 10:55～12:25

アクティールホール会場

司会：坊岡 峰子(県立広島大学)

## [ 高次脳機能障害者が社会とつながるために ]

### S1-1 病院だからできること

国立精神・神経医療研究センター、帝京平成大学 言語聴覚学科 廣實 真弓

### S1-2 ピアサポートはなぜ回復をもたらすか

おおさか脳損傷者サポートセンター、洛陽病院 中塚 圭子

### S1-3 地域で進めるあきらめない回復支援・高次脳機能障害における コミュニティでの回復

身体障害者デイサービスセンターふらっと 和田 敏子

シンポジウムⅡ 5月28日(土) 14:15～15:45

アクティールホール会場

司会：森永 京子(東京都立多摩療育園)

## [ 障がいの重い子どもたちとのコミュニケーションを再考する ]

### S2-1 障害の重いこどもの意思表示の読み取りと係わりの工夫

高崎健康福祉大学 松田 直

### S2-2 コミュニケーションの力に思うこと～子どもたちと生活する中で

長野県諏訪養護学校 水上 洋治

### S2-3 『わかる／できる』からコミュニケーションのチャンスを作る工夫

にしむら小児科発達支援ルーム“みらい” 岩根 章夫

体験セミナー 5月29日(土) 10:30～12:00

A会場(ビル12階)

司会：竹内 洋彦(長野県立総合リハビリテーションセンター)

[ 最近のコミュニケーションテクノロジー：触れて感じて使ってみよう ]

**S3-1 『モバイル型遠隔情報保障システム』のもたらす難聴児の自立**

特定非営利活動法人長野サマライズ・センター 小笠原美恵子

**S3-2 記憶、認知症への情報呈示ツールの開発**

千葉労災病院 安田 清

**S3-3 ぽっしゅん教材製品紹介 - web からダウンロードできるお役立ち教材-**

ぽっしゅん教材 長野県伊那養護学校 本田 祐介

**S3-4 コミュニケーションシンボルライブラリ『ドロップス』と  
高機能VOCA『ドロップトーク』の開発と活用**

ドロップレット・プロジェクト 長野県稲荷山養護学校 青木 高光

**S3-5 障がいの重い子ども達の応答する環境づくり  
- 振動するおもちゃと転がすVOCA -**

長野県稲荷山養護学校 杉浦 徹

特別企画 5月28日(土) 16:00～16:50

アクティーホール会場

[ 失語症 演劇ワークショップ ]

長野失語症友の会のみなさん  
内山 二郎(フリージャーナリスト)  
林 耕司(長野赤十字病院)

会長講演 5月29日(土) 15:25～16:05

アクティーホール会場

司会：吉畑 博代(県立広島大学保健福祉学部)

[ 口腔顔面領域の運動機能とその障害に新しい視点を ]

長谷川 和子 山梨リハビリテーション病院・昭和大学

# 特別講演

## コミュニケーションの原点を探る — 表情と関係性から —

菅原 和孝氏

京都大学大学院人間・環境学研究科

司 会：長谷川 和子(学術講演会会長)

5月29日(日) 14:10～15:20

アクティールホール会場

氏は、サルやヒヒに関するフィールドワークから始まり、狩猟採集民ブッシュマンとの生活、民族芸能の調査などを通じて、相互交渉、会話など広くコミュニケーションについて研究してこられた人類学者です。同時に、独特な環境世界を持ちながら共に生きる自閉症のご子息を限りなく愛おしみながら、応答可能性を探り続けてこられた親御さんでもあります。

氏の、「コミュニケーションとしての身体論」は、従来「非言語的コミュニケーション」「身体的コミュニケーション」と呼ばれてきた分野とは異なり、コミュニケーションの原点を深く探る試みです。その試みは、「認知的な自己」を振り返り、感情論へと発展し、さらに身体論の延長で「人間が社会をなして世界に住むその仕方」を捉えなおそうとするものです。

さまざまな意味で、興味深いお話がうかがえるものと思います。

**菅原 和孝(すがわら かずよし)氏**

京都大学大学院人間・環境学研究科教授 専門は社会人類学

1949年東京都生まれ

少年時代から動物学者を志し、1969年京都大学理学部入学

大学闘争に衝撃を受け、「人間をわかる」ことを目標に人類学に転向

愛知県犬山市にある京都大学霊長類研究所の大学院に学び、宮崎県幸島のニホンザルやエチオピアの雑種ヒヒを対象に、相互行為の基盤から社会を理解する道を模索した

1980年北海道大学文学部助手

1982年よりガイ・ブッシュマンの調査を開始

1988年京都大学教養部助教授

総合人間学部助教授・同教授を経て2003年より現職

2000年より民俗芸能における身体技法の伝承に関する調査を継続。

**【主 著】**

『身体的人类学』（河出書房新社、1993）；

ガイ・ブッシュマンの身体的関わりのを分析した書

『語る身体的民族誌』『会話的人类学』（京都大学学術出版会、1998）；

会話分析の集大成

『もし、みんながブッシュマンだったら』（福音館書店、1999）；

小説的手法を用いた書

『感情の猿＝人』（弘文堂、2002）；渾身の理論書

『ブッシュマンとして生きる』（中央公論新社、2004）；

フィールドワークの精髓をまとめた書

『ことばと身体』（講談社、2010）；

日本人の会話分析をも盛りこんだ書

**【編 著】**

『コミュニケーションとしての身体』（大修館、1997）

『フィールドワークへの挑戦』（世界思想社、2006）

『身体資源の共有』（弘文堂、2007）

他

## コミュニケーションの原点を探る — 表情と関係性から —

菅原 和孝

京都大学大学院人間・環境学研究所

### 1. コミュニケーションとは何か — 序論にかえて —

コミュニケーションの障害について考えるためには、コミュニケーションとは何かを定義しなければならない。まず、「情報の伝達」「関連性」「社会システム」といった理論を紹介する。ついで、従来のコミュニケーション理論には大きな限界があることを指摘する。それは健常者中心主義に基づく「擬主体化」である。つまり、自明視された意識の習性を「障害者」に投影し、〈かれら〉を基本的には自分と同種の意味世界を生きる主体であるかのように解釈しようとする。この罫を完璧に乗り越える処方箋を私は持ちあわせないが、メルロ＝ポンティによって構想された間身体性に基づく思考を有力な方法として提案したい。われわれは「意識」であるよりも前に、個別的な文化を刻みこまれた間身体性に投げ込まれている。名や顔をもった他者と私とはもともと仲間性によって繋がっている。表情をおびた身ぶりを直截に感受し、共在を持続し、同じような出来事を反復し続けることがもっとも重要である。

### 2. ギイ・ブッシュマンのフィールドで

自閉症という障害をもった長男を日本に残し、私はカラハリ砂漠に暮らす狩猟採集民ギイのもとに長い年月にわたって住み続けた。ギイの子どもたちを見つめる私のまなざしは、つねに長男への気がかりによって彩られていた。これは「観察の理論負荷性」の一種である。それを逆手にとって、相互行為から立ちのぼる表情を経験的に記述する方途を探る。

つぎに、私が初めて会ったときにすでにおとなになっていた知的障害者に注目する。彼の母には精神錯乱の既往歴がある。周囲の人びとは、息子の障害と母の疾患とを結びつけて解釈する傾向があった。彼女へのインタビューを分析し、知的障害者を養育しながら生きることを共感的に理解する道すじを示す。

### 3. 反響と反復 — ゆっくんと共に暮らしてきた33年間 —

ゆっくんという愛称で呼ばれる長男の生のかたちを生育歴にしたがって追う。

ゆっくんが自閉症児であることが明らかになってから、親の不安は「知の権力」の家庭内への侵入によって増幅させられた。彼のごく小さな自発性の発露から希望の光が射したことに注目する。ゆっくんの小中学生時代には、彼のナンセンスな「口ぐせ」（構語不全）と私の復唱とのやりとりこそが、独特なコミュニケーションをつくっていた。行為と表情に〈思いをこめる〉ことがコミュニケーションの原点ではないか、という直観はこの時期のさまざまな出来事から得られた。成人してから間もなく、ゆっくんは緘黙傾向を強めるとともに、親との外出や旅行を拒むようになった。また理由の定かでない「怒鳴り」を爆発させるようになった。だが、そうした拒否と拮抗するかのようになり、思いがけない理解力、思いやり、柔軟性の片鱗を覗かせるようになった。

### 4. 仲間性 … 結語にかえて…

認知科学的な自閉症研究は、「心の理論」という脳内に仮設されたモジュールの損傷に、この障害の原因を帰する。だが、私は、実存の意味の統一を「欠如」によって説明する理論には懐疑的である。あらゆるコミュニケーションの「障害」もまた人間が実存する多様な可能性のひとつである。その可能性と真正面から取り組もうとする身構えもまた、人類が育んできた仲間性の一環であろう。

# 一般演題

(口述発表)

H・I群

第2日目 5月29日(日)

ホー儿会場

## H-1

### 新生児聴覚スクリーニング検査実施状況による難聴児の受診の動向

井上 理絵<sup>1)</sup>、大沼 幸恵<sup>1)</sup>、阿曾 寛子<sup>1)</sup>、  
鈴木 恵子<sup>2)</sup>、原 由紀<sup>2)</sup>

1) 北里大学病院 耳鼻咽喉科、2) 北里大学 医療衛生学部

**【目的】** 北里大学病院では2002年に新生児聴覚スクリーニング検査(以下、スクリーニング)を導入した。しかし導入後も就学前後で発見される難聴児の数は減少していない印象を受ける。そこで、難聴精査を目的に受診する小児の動向を初診月齢、受診の契機を中心に検討した。

**【対象と方法】** 2002～2009年に難聴精査を目的に受診した小児302例を、スクリーニング実施の状況により、『スクリーニング実施児』、非実施児のうちスクリーニング導入後出生の『導入後非実施児』、導入前出生の『導入前非実施児』に分け、診療録で初診月齢、診断、難聴の程度、受診の契機を調査した。

**【結果】** スクリーニング実施児は154例(51%)、導入後非実施児は77例(25%)、導入前非実施児は71例(24%)であった。両側難聴児の初診月齢は、導入後非実施児ではMild $48.3 \pm 31.4$ ヵ月(6例)、Moderate $60.5 \pm 13.3$ ヵ月(4例)、Moderately Severe $40.7 \pm 27.1$ ヵ月(6例)、Severe $29.3 \pm 22.9$ ヵ月(7例)、Profound $20.6 \pm 14.7$ ヵ月(14例)、導入前非実施児ではMild $103.0 \pm 37.3$ ヵ月(24例)、Moderate $79.8 \pm 27.3$ ヵ月(12例)、Moderately Severe $66.5 \pm 32.9$ ヵ月(21例)、Severe $55.0 \pm 6.1$ ヵ月(3例)、Profound $29.3 \pm 5.3$ ヵ月(4例)であった。各群の年齢から見て、すでに全群で難聴が発見されていると推定されるSevereやProfoundの難聴児でも、導入後非実施児で導入前非実施児より初診月齢が低い傾向があった。難聴の家族歴や合併症が無いMild～Moderateの難聴児の受診の契機は、構音障害や学校健診が主で3歳健診までの診断はほぼ無かった。

**【考察】** 導入前非実施のMild～Moderateの難聴児の初診年齢は平均6歳半～8歳半で就学後の発見が依然みられた。この数は今後減少すると考えるが、導入後非実施児の難聴児はスクリーニングの実施率が不変であれば今後も一定数生じると考えられ、Mild～Moderateの難聴でも3歳児健診までに発見し療育が開始できるような健診システムが必要と考えられる。

## H-2

### 自由会話における人工内耳装用児及び軽中等度難聴児のコミュニケーションブレイクダウンと訂正方略

平島 ユイ子<sup>1,2)</sup>

1) 福岡市立壱岐東小学校、  
2) 国際医療福祉大学言語聴覚専攻

**【目的】** 難聴児との音声会話は、コミュニケーションブレイクダウン(以下ブレイクダウン)が起こりやすい。ブレイクダウンは相手がメッセージを解することが困難な「沈黙や笑み」のみの反応で会話が途切れる状態。回避するには聞き返すなどの訂正方略が用いられる。訂正方略は全体型と確認型と限定型に分類される。本研究では5歳から7歳の人工内耳装用児及び専門機関で療育指導を受けてきた同年齢の軽中等度難聴児の自由会話におけるブレイクダウンと訂正方略について聴児との違いを検討し報告する。

**【方法】** 対象：聴児、軽中等度難聴、人工内耳、5～7歳各10名。軽中等度難聴(月齢76ヶ月、装用閾値33dB SPL、装用歴54ヶ月、良耳聴力61dB HL)、語音明瞭度86%、言語力VIQ105)人工内耳(月齢83ヶ月、装用閾値34dB SPL、装用歴34ヶ月、良耳聴力110dB HL)、語音明瞭度72%、言語力VIQ88)。

**方法：** 子どもと同一検査者との対面による自由会話を録音してスクリプトをおこす。

**分析：** ブレイクダウンとなったターンの全会話に占める割合と50ターン中の訂正方略の発現数を聴児と比較した。

**【結果】** 軽中等度難聴は、聴児に比べるとブレイクダウンが有意に多い。人工内耳装用は聴児との差は出なかった。軽中等度難聴も人工内耳装用も沈黙が有意に聴児に比べ多く、ミニマル反応は変わらなかった。訂正方略は、人工内耳装用は聴児に比べると全体型が有意に多く、確認型と限定型は差がなかった。軽中等度難聴児は聴児に比べ確認型が有意に少なく、限定型、全体型は差がなかった。

**【考察】** 軽中等度難聴児のブレイクダウンが多い理由として確認型の訂正方略を用いることが少ないと考えられる。軽中度難聴児が一見聞こえているように振る舞うミニマル反応の多さから、難聴に対する配慮が薄れがちになり会話が広がりにくくなるのが改めて確認できた。軽中等度難聴児に対してもコミュニケーション指導の必要性を示唆する。

## 重度の舌小帯付着異常による舌運動障害があった発達障害児の1例

西脇 恵子<sup>1)</sup>、埜藤 奈美<sup>2)</sup>、田村 文誉<sup>1)</sup>

1) 日本歯科大学附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター、

2) 東京大学附属病院 リハビリテーション部

【はじめに】重度の舌小帯付着異常を主訴に切除術を受けた発達障害児を経験した。重度の舌小帯付着異常は、摂食や構音の機能に障害を受けることがある。本症例は、発達障害があり、舌小帯付着異常に対する適切な治療が行われなかった。術後の摂食機能、言語機能の改善を検討し、発達障害を持つ小児に対する口腔診断の必要性を感じたので報告する。

【症例】初診時4歳男児。地域の福祉センターでST評価を受け、小児神経科医に精神遅滞と自閉症の疑いを指摘された。1か月に4回の療育を受けていた。

【初診時評価】舌小帯付着異常を近医で指摘され、当院を紹介受診した。舌小帯が舌尖下部に付着しており、舌の運動が顕著に障害されていた。偏食が多く食事摂取量が少なく、身長86cm、体重10.1kgと生活年齢に比べて身体発育の偏りが見られた。言語面では、有意味な語や身ぶりの表出はなく、要求は母親の手を引っ張って表現していた。訓練室内での状況の中での指示理解は困難で、模倣も認められなかった。

【経過】手術後、母親の希望による当院でのSTを5歳8か月まで1回/月行った。術後2か月経過して、柔らかい固形物の咀嚼ができるようになり、食事が次第に増えた。身体発育状況は、終了時は身長100cm、体重14.6kgと、厚生労働省の幼児発達曲線の3パーセントイル付近まで改善した。言語機能は、他者への注目、身振り模倣、音声模倣が可能になり、数語の有意味語の発信ができるようになった。

【まとめ】本症例は、発達障害があり有意味な語の表出がないことから構音運動が観察されず、また摂食障害も発達障害の影響と考えられてきた。このため、舌小帯付着異常が重度であったにもかかわらず、4歳になるまで気づかれなかった。術後、摂食機能、身体発育、言語機能の発達が著しく改善したことから、栄養障害が脳の発育に影響を及ぼした可能性も考えられる。発達障害児においても口腔機能の評価を行う必要があるといえる。

## 構音訓練の般化 一声門破裂音を示した先天性鼻咽腔閉鎖不全症児1例について

加藤 正子<sup>1,3)</sup>、下村 有利那<sup>2)</sup>、伊藤 美知恵<sup>3)</sup>

1) 愛知淑徳大学、2) 伊勢慶友病院、3) 愛知淑徳大学

【目的】構音訓練の中で、最も重要な事柄は音が改善する過程で見られる般化である。般化がより大きく起こる反応(構音運動)を見出し、その反応を高める提示刺激と強化子の選択が訓練の改善に重要である。今回、声門破裂音を示した先天性鼻咽腔閉鎖不全症1例を対象に構音訓練による般化過程を、1. 訓練語・非訓練語 2. モーラ数 3. 語内位置 4. 単語・文 5. 後続母音で、比較検討したので報告する。

【方法】対象は、先天性鼻咽腔閉鎖不全症の女児(6歳)、言語発達は境界域、鼻咽腔閉鎖機能は軽度不全(未手術)である。訓練開始時の構音は /k, t/ に声門破裂音が認められた。いずれの音も音節でほぼ可能になった段階で、単語訓練を各音5回行い、非訓練語への改善(般化)を評価した。対象音は4音 /ka, ko, ta, to/、訓練語は各音15単語(計60語)、前半の5回は /ka, ta/、後半5回は /ko, to/ を訓練した。般化を評価する非訓練語は、各音2モーラ語(語頭2、語頭以外2)、3モーラ語(語頭2、語頭以外4)計40語、文は各音2文(計8文)である。般化評価は毎回、訓練前に行い、/k/ 語と /t/ 語の提示は毎回の訓練ごとに交互に行った。

### 【結果】

1. 訓練をすることで、非訓練語の改善(般化)がみられた。
2. 非訓練語の改善は、訓練終了後(約6回目)から60%を超え最終回では80%に達した。
3. 4音の内、3音はモーラ数の少ない語の方が高い改善を示した。
4. 3音は語頭以外の音より語頭音の方がより改善を示した。
5. 語の訓練で文への般化は1音にみられた。
6. 音の般化は後続母音で異なっていた。

【考察】般化による改善は、症例の特徴、構音障害のタイプ、対象音、訓練内容、訓練段階などに影響される。今回は1例で試験的にまとめたが、般化を分析することは訓練時間の短縮に繋がるため臨床的意義は大きいと考える。

# 一般演題

(ポスター発表)

J～M群

第2日目 5月29日(日)

B会場

## 失語症者の文産出課題における動詞の誤り： 動詞結合価の変更の分析

吉田 敬<sup>1)</sup>、長塚 紀子<sup>2)</sup>

- 1) 愛知淑徳大学 健康医療科学部、  
2) 上智大学 言語聴覚研究センター

【はじめに】失語症者による動詞の誤りの分析の多くは、動詞単独での表出時に見られる錯語等の種類の分類を中心としたものである。しかし、日常会話では動詞が文中でいかに適切に用いられるかが重要である。今回、失語症者に文産出課題を行い、文法的な面から動詞の誤りについて検討した。

【協力者】失語症者16名(流暢群9名、非流暢群8名)。失語の重症度は様々であるが、少なくとも1項文の表出が見られる者を対象とした。

【課題】SALA 失語症検査(藤林ら、2004)の文表出課題(PR27)を実施した。この課題は、TRIP(Whitworth, 1996)の方法に倣い、1～3項文それぞれにつき、絵カードとモデル文を呈示したのち、絵カードを見て文を表出することが求められる。

【分析】ターゲット以外の表出動詞を対象とし、特に表出動詞が目標動詞と結合価(verb valency)の点で異なるどうかに着目し、結合価が同じもの(「蹴る」→「押す」(ともに2項動詞))、結合価が異なるもの(「追いかける」→「走る」(2項動詞→1項動詞))、その他に分類した。

【結果】1)非流暢群よりも流暢群で結合価が異なる誤りの割合が多くみられた。2)両群とも、目標文の項の数が増えるにつれて、目標動詞と結合価が異なる動詞の表出がより多くみられた。3)結合価が異なる場合、両群とも結合価の増加よりも結合価の減少が多くみられた。4)結合価が異なる場合、非流暢群では表出文が文法的であるか、項が省略される傾向があるのに対し、流暢群では表出文が非文法的になることが多かった。

【考察】発話の流暢性を問わず、表出動詞が目標動詞と異なる場合、項構造がより単純な動詞が表出される傾向があることから、失語症者に動詞の表出訓練をする際には動詞結合価にも留意する必要がある。また、流暢性失語では、動詞の変更に伴い非文法的な発話になる傾向があり、文中での動詞の適切性も考慮する必要があると考える。

## 失語症者1例とのコミュニケーションに おける心理的意味と変容プロセス —家族の語りからの分析—

松山 美江<sup>1)</sup>、田中 克典<sup>2)</sup>

- 1) 豊川青山病院 リハビリテーション技術室、  
2) 豊川市民病院 リハビリテーション科

【はじめに】失語症の臨床では、言語機能面への働きかけとともに、周囲の人とどのようにコミュニケーションを図っていくかが課題となる。今回、失語症のため言語療法を行った患者の家族に対し、発症直後から発症経過3年7ヶ月間の患者とのコミュニケーションの様子をインタビューすることができた。本研究の目的は、家族の語りから、失語症者とコミュニケーションを図った時に気持ちはどのように変化したのか、また、コミュニケーションがどのように変容したのかを報告するものである。

### 【方法】

対象者 失語症者との続柄：長女、年齢：60歳代。

失語症者 性別：女性、年齢：80歳代前半、運動麻痺の有無：右片麻痺、歩行状態：非自立、車椅子駆動：自立、失語症分類：ブローカ失語。データ収集は、1名の家族に対し半構造化面接を行い、その内容をカセットテープレコーダーに録音し、全て逐次文字化した。

【結果】対象者の語りから「発症直後の母の様子から読み取れる気持ち」など6つのエピソードを抽出した。また、「発症直後と発症経過後のコミュニケーションのとりかた」における変容プロセスは、1)発症初期：言葉がわからなくても何とかなるだろう、ノンバーバルを読み取る努力、2)発症中期：言葉が増えていく喜び、3)発症後期：言葉のみに頼らない繋がりであった。さらに、失語症者の心理的意味として、「障害に対する価値観の転換」や「受容感の拡大」に関する語りがあった。

【考察】障害を抱えることは、人生全体の意味が変容する体験である。本症例もそれまで経験することのなかった人間関係や生活空間に入らざるを得ない状況であり、その中でショックと戸惑い、不安の強さが語りからも理解できる。コミュニケーションにおける家族の満足度は、言葉が増えていくという量的な視点よりも、言葉にならない繋がりという質的な側面が大きく関与していることが語りから示唆された。

## 「失語症の理解とケアの実践講座」を終えて ～チューターへのアンケート結果からの 一考察～

村上 光裕、坂本 明子、池田 友紀、石田 真理江  
因島医師会病院 リハビリテーション科

【目的】全国失語症友の会連合会主催、因島言語友の会あけぼの会主幹、和音協力により一般市民・失語症の家族・関連職種や行政の窓口等で失語症と接する機会のある人を対象に、失語症の知識と具体的なコミュニケーション技術を学ぶ講座を開催した。グループワークのチューターの言語聴覚士(以下ST)に講座終了後にアンケートを実施した。結果を報告し、若干の考察を加える。

【方法】チューター14名(男5名女9名)を対象。年齢は20代～50代、臨床経験は3年未満～20年以上。質問項目は3項目。大いに思う～全然思わないの5件法。感想は自由記述。

【結果】回収率100%。1.「臨床に役立つと思われるか」に対し、大いに思う、だいたい思うが93%あり、理由は、①自分自身の気づき ②受講者の反応 ③家族指導 ④患者との接し方に大別された。2.「今後もチューターとして参加したいか」に対しては86%だった。理由は①自己啓発 ②社会啓発に分けられた。別意見としてこの機会を他のSTにという意見もみられた。3.「苦勞した点」は、①まとめ役 ②受講者個々の悩みなどの対応 ③失語症者個々の対応の仕方の説明という意見があった。

自由記述の感想については、①自己啓発 ②社会啓発になったという意見が大半を占めた。

少数だが、STでも初対面の失語症の人とはうまく対応できないことがある。今回の講座だけでは、役場や銀行の窓口の人が会話できるようになるとは思えない等の意見もあった。

【考察】講座は、受講者のみならず、協力したSTにも役立ち、失語症の社会啓発に繋がっている。反面、1日の講座だけでは、受講者個々の悩みなどの対応、多様な失語症状、個々の対応の説明は難しい。今後は講座をたくさんSTに経験してもらおう事が大切である。一方、継続したスキルアップ講座や、STと会話パートナーと失語症者その家族との個別対応可能な関係作りをしていく必要があると考える。

## 会津失語症友の会の活動展開と課題

阿久津 由紀子<sup>1)</sup>、飛松 好子<sup>2)</sup>

1) 竹田総合病院 リハビリテーション科、  
2) 国立障害者リハビリテーションセンター

【はじめに】会津失語症友の会は、当院を中心とする福島県会津地域の当事者・家族の会として、2004年に結成され、現在会員は約30名である。現在までの活動展開を紹介するとともに、今後の課題を報告する。

### 【経過】

第1期：ST主導での地域での活動開始。2003年、準備活動として在宅の言語障害者に対するアンケート調査を行い、回答者93名中35名(38%)が参加希望という結果を得た。2004年5月、会津失語症友の会を結成し、同年全国失語症友の会連合会へ加入した。年2回会津地域での交流会を開催しながら、全国各地で開催される失語症者のつどいへ参加し、多くの交流を得て会の基盤が固まった。

第2期：県内での交流拡大。県内のSTや友の会との協力の下、2007年9月、第1回福島県失語症者のつどいを主催し、当事者、家族、ST、学生ボランティア等102名の参加を得た。その後、県内各地持ち回りで年1回のつどいが定着し、2011年は白河地区で第5回のつどいが開催される予定である。

第3期：当事者自主運営に向けた取り組み。2010年より、総会・交流会・月1回の定例会の進行を会員自身が行うこととし、STは自主運営を支援する立場を意識している。年2回発行している会報はSTが編集しているが、可能な限り会員からの投稿やインタビューによる記事を増やしていくよう努力している。また、会内に自主サークル「チャレンジクラブ」が結成され、活動性の高い会員有志が、地域の大学見学、バーベキュー等を企画している。

【今後の課題】当会の活動は8年目となる。地域での活動から開始し、全国各地での交流を経て、県内の中心的な友の会の1つに発展した。しかし、当会においても、県のつどいにおいても新規参加者が少ない傾向にあり、活動の停滞が危惧される状況である。発表では、関係者へのアンケート調査を加え、会員の満足度や今後の課題について考察する。

第37回日本コミュニケーション障害学会学術講演会を開催するにあたり、多くの皆様からご協力をいただきました。ここに厚く御礼申し上げます。

### 助 成

(財) ながの観光コンベンションビューロー (財) 日本教育公務員弘済会長野支部

### 協 賛

山梨リハビリテーション病院 信濃医療福祉センター  
長野赤十字病院 鹿教湯三才山リハビリテーションセンター  
篠ノ井総合病院 (株) 匠電舎

### 書籍・企業展示

(株) エスコアール (株) 学苑社  
(株) キューピー (株) 三和化学研究所  
(株) 匠電舎 (有) スペース96  
(株) ティーアンドケー トロルストア  
(株) 日本事務光機 (株) ニュートリー  
(株) フードケア (株) ヘルシーフード  
(株) マルハニチロ食品 (株) 明治乳業  
(株) 森永乳業グループ クリニコトロール (株) VIP グローバル

### 後 援

長野県 長野県教育委員会  
長野市教育委員会 長野県社会福祉協議会  
長野市社会福祉協議会 長野県医師会  
長野県歯科医師会 長野県看護協会  
長野県理学療法士会 長野県作業療法士会  
長野県臨床心理士会 全国公立学校難言教育研究協議会  
長野県ことば・きこえ親の会 全国失語症友の会連合会  
長野県失語症友の会 信州発達障害研究会  
信濃毎日新聞社 日本言語聴覚士協会  
長野県言語聴覚士会

(順不同)

# 第37回日本コミュニケーション障害学会学術講演会 準備委員

会 長 長谷川和子（山梨リハビリテーション病院 昭和大学）

事務局長 野沢由紀子（信濃医療福祉センター 他）

準備委員 大熊 尚美（信濃医療福祉センター）

帯川 一行（諏訪中央病院）

小市 恩（篠ノ井総合病院）

小林 洸介（鹿教湯三才山病院）

竹内 洋彦（長野県総合リハビリテーションセンター）

西村 裕子（松代総合病院）

原田真知子（相澤病院）

平沢 利泰（長野中央病院）

藤森 美恵（飯伊訪問看護ステーション 他）

二木 保博（長野赤十字病院）

保屋野健悟（小諸厚生病院）

武藤 茜（信濃医療福祉センター）

矢崎 有子（宮坂医院 他）

安川 健治（長野県川中島小学校）

山崎 美佳（信濃医療福祉センター）

山田 智子（信濃医療福祉センター）

山本 力（信濃医療福祉センター）

山本 総（信濃医療福祉センター）

第37回 日本コミュニケーション障害学会学術講演会  
予稿集

---

2011年4月22日発行

発行者：第37回日本コミュニケーション障害学会学術講演会会長  
長谷川和子

事務局：〒393-0093 長野県諏訪郡下諏訪町社字花田6525-1  
信濃医療福祉センター リハビリテーション部 言語療法科  
TEL:0266-28-0056 FAX:0266-27-5953  
E-mail:37th.com.gakkai@gmail.com

出版： 学術集会専門出版社  
株式会社セカンド

〒862-0950 熊本市水前寺4-39-11 ヤマウチビル1F  
TEL:096-382-7793 FAX:096-386-2025



### 鏡池の畔から望む戸隠連峰

戸隠は長野市の西に位置し、戸隠連峰の山々が描く墨絵のような独特な山容で、古代から霊峰として崇められて来ました。水面に、まるで鏡のように戸隠連峰を映し出す鏡池は、写真愛好家に人気の撮影スポットです。



### フデリンドウ（撮影地：長野県岡谷市）

リンドウ科の越年草。日当たりのよい山野に自生。茎は高さ約8センチメートルで、卵円形で質の厚い葉を密に対生します。春、茎頂に淡紫青色、筒状の花を数個上向きにつけ、日を受けて開きます。



### サクラソウ（撮影地：長野県原村）

日当たりのよい草原に生え、また観賞用にも栽培されます。全体を軟毛が覆い、葉は根生し、卵形。春、高さ約20センチメートルの花茎を立て、頂に紅紫・桃・白などの花を数個つける可憐な草花です。



### エゾノコリンゴ（撮影地：長野県茅野市）

バラ科リンゴ属の落葉小高木。林縁や河岸などに生え、高さは5～10メートルになります。5月から6月ごろ、枝先に散形花序をだし、白色の花を咲かせます。果実はナン状果で、秋に濃紅色に熟します。



### シラネアオイ（撮影地：長野県白馬村）

シラネアオイ科の多年草。日本特産。深山に自生し、特に日光白根山に多い。茎は直立し、掌状の葉を互生します。5月から7月ごろ、茎頂に淡紫色ときに白色の花を一個つけますが、これは花弁でなく萼片です。